

はまなす車いすマラソン2017開催要綱

1 目的

この大会は、全国の障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深め、希望と勇気をもって社会に参加する意欲を喚起するとともに、道、市民の障がい者に対する理解と共感を広げ、ノーマライゼーションの理念の浸透を図ることを目的とする。

2 大会名

はまなす車いすマラソン2017

3 主催

はまなす車いすマラソン2017実行委員会

(公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会、一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会、北海道、札幌市、公益財団法人北海道体育協会、一般財団法人札幌市体育協会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、一般財団法人北海道陸上競技協会、一般財団法人札幌陸上競技協会)

4 協力

北海道マラソン2017組織委員会

5 競技主管

一般財団法人札幌陸上競技協会

6 後援

北海道教育委員会、札幌市教育委員会、一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団、一般財団法人北海道体育文化協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟、公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金、公益社団法人北海道観光振興機構、一般社団法人北海道医師会、一般社団法人札幌市医師会、一般社団法人札幌ハイヤー協会、一般社団法人北海道バス協会、事業協同組合札幌個人タクシー協会、株式会社北海道新聞社、株式会社道新スポーツ、UHB北海道文化放送株式会社、AIR-G' エフエム北海道 (順不同)

7 特別協賛

株式会社ムトウ

8 協賛

株式会社近畿日本ツーリスト北海道、公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金、株式会社太陽グループ、一般社団法人北海道医師会、社会福祉法人クピド・フェア、札幌福祉医療器株式会社、株式会社ツルハホールディングス、北海道国民健康保険団体連合会、北海道町村会、社会福祉法人北海道リハビリ (順不同)

9 ボランティア協力(予定)

社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、札幌福祉医療器株式会社、NPO法人太陽グループボランティアチーム、北海道少林寺拳法連盟、札幌はまなすライオンズクラブ、ひまわり会、親切会北海道支部、株式会社札幌義肢製作所、マックスパリュ北海道株式会社 (順不同)

10 開催期日

平成29年8月26日(土)、27日(日)

※北海道マラソン2017との合同開催。

11 コース・距離

○ハーフマラソン (21.0975km)

大通西4丁目・駅前通をスタート、新川通新川西1-1をフィニッシュとし、北海道マラソンと同コースで実施する。日本陸上競技連盟公認コース(コース名:はまなす車いすマラソンコース)

大通西4丁目⇒駅前通⇒すすきの⇒南9条通⇒豊水通⇒幌平橋⇒中の島通⇒平岸通⇒南7条大橋⇒創成川通(アンダーパス含む)⇒北8条通⇒石山通⇒下手稲通⇒新川通⇒琴似栄町通⇒新琴似1番通⇒新川通⇒新川通新川西1-1

12 参加資格

参加選手は、次のすべての条件を満たす者とする。

- (1)身体障害者手帳の交付を受けている車いす常用者及びそれに準ずる者
- (2)平成29年4月1日現在、13歳以上の者

13 大会参加費

3,000円

(お振込後の返金には応じませんので予めご承知ください。)

14 参加定員

100名とする。

(申し込み後、参加が決定した選手には、参加決定通知と参加費支払い方法について案内する。)

15 大会スケジュール

(1)8月26日(土)

受付／13時00分～
説明会／15時00分～15時30分
コース下見／15時30分～17時30分
食事会／18時30分
会場／アパホテル&リゾート札幌
札幌市南区川沿4条2丁目(TEL 011-571-3111)

(2)8月27日(日)

競技／8時30分スタート
9時15分頃 先頭選手フィニッシュ見込
10時05分フィニッシュ地点閉鎖
閉会式／13時30分～
会場／アパホテル&リゾート札幌
札幌市南区川沿4条2丁目(TEL 011-571-3111)

16 競技規則

別に定める。

17 クラス分け

3クラスに分ける。(区分は本大会競技規則による。)

18 表彰

表彰はクラス別・男女別とし、クラス3の男子は1位から6位まで、クラス3の女子及びクラス1・2の男子と女子には、1位から3位まで入賞者に楯を授与する。

種目	区分	男子	女子
ハーフマラソン	クラス3	1位～6位	1位～3位
	クラス2	1位～3位	1位～3位
	クラス1	1位～3位	1位～3位
	道内	1位～3位	1位～3位

表彰の区分は、クラス別・道内・男女別とし、1位から3位まで(クラス3の男子は1位から6位まで)の入賞者に楯を授与する。

19 競技中の事故について

競技中に事故が発生した場合の治療費は、原則として競技者の負担とする。ただし、救急処置については、主催者側で対処する。

主催者において、競技者全員のスポーツ傷害保険に加入する。また、当日は健康保険証を持参すること。

20 健康管理

大会参加に関しては、事前に健康診断を受けるなど体調管理を徹底し、出走における健康管理については自己責任とする。(主催者における健康診査はありません。)

21 雨天時の取扱い

雨天時においても原則として実施する。

22 申込方法

参加申込書(様式第1号～3号)に必要事項を記入の上、平成29年5月31日(水)までに大会事務局へ送付すること。

参加申込書は、「北海道マラソン、はまなす車いすマラソン」「北海道障がい者スポーツ協会」HPからもダウンロードが可能。

【<http://hokkaido-marathon.com/2017/wheelchair/>】 【<http://www.do-syospo.or.jp/>】

【大会事務局】

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センター4F
公益財団法人 北海道障がい者スポーツ協会
はまなす車いすマラソン 2017 実行委員会事務局
TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201

23 オープン競技

ショートレースをオープン競技として実施する。なお、実施に関する必要事項は別に定める。

はまなす車いすマラソン2017

宿泊等申込みの注意事項

次の事項に留意し、宿泊等申込書（様式3号）に必要事項をご記入のうえ、平成29年5月31日（水）までに大会事務局へお申込みください。

1 交通機関の利用

道外より参加される方は、下記のとおり参加する際の交通機関を記入して下さい。

A. 航空機申込み

希望により航空機の申込みを受け付けます。航空機の申込みを希望する場合は、必要事項を記入して下さい。

※北海道マラソンとの合同開催により、来道・離道の航空機に混雑が予想されます。希望される便を手配出来ない場合もありますので、お申込み時には、第二希望までご記入をお願いします。

※航空会社の規則により、お申込受付後に再度書類の提出が必要となります。

B. 航空機・各自手配

各自で航空機を手配する場合も、計画輸送バスの利用にあたり、必要事項を記入して下さい。（便名及び時間が未定の場合は、決まりしだい大会事務局へご連絡下さい、計画輸送バスの利用が出来ない場合があります。）

C. 搭乗者

航空機を申込みの場合と各自で手配する場合ともに、搭乗者の氏名及び自力歩行可否について記入して下さい。

D. 他の交通機関を利用

航空機以外の交通機関にて来道・離道される場合は、利用する交通機関と来道、離道日を記入して下さい。（申込み受け付けは致しませんので、各自で手配願います。）

※航空運賃の払込方法、航空券の発送は、後日、取扱業者よりご連絡申し上げます。（払込期限は7月7日（金）頃とし、航空券発送は7月下旬を予定しています。）

2 バス輸送

ハーフマラソンに参加する選手のバス輸送を次のとおり運行します。

空港⇄宿舎のバス輸送の利用を希望される方については、乗車希望日と人数を必ず記入して下さい。

◆ 8月26日（土） 新千歳空港⇒指定宿舎⇒コース下見

◆ 8月27日（日） 指定宿舎⇒スタート地点

フィニッシュ地点⇒指定宿舎または新千歳空港

◆ 8月28日（月） 指定宿舎⇒新千歳空港

○上記以外の移動については、各自で手配願います。

○バス運行時間は、航空便時間帯等により待ち時間が発生する場合がありますので、事前にご承知おきください。

○バスは航空機の時間帯や定員状況から、事前の配車計画により運行しますので、変更などの申し出はお受け出来ません。

○地域により航空便が1日1便しか無いなど、特段の理由によりバスの利用が出来ない方は、事前に大会事務局へご連絡願います。（個人的な理由は除きます。）

3 宿泊

ハーフマラソン参加選手と同行者については、指定宿舎に限り申込みを受付けます。希望される方は、内容をご確認のうえ、宿泊希望日に申込み人数をご記入して下さい。

○宿泊料金 7,000円（1泊朝食付き）の一部を実行委員会で助成します。

助成は選手のみとし、同行者と札幌市及び近郊50km圏内に在住の選手は助成の対象となりません。

		道外在住		道内在住	
		選手	同行者	選手	同行者
宿泊料 (自己負担)	26日	3,000円	7,000円	3,000円	7,000円
	27日	3,000円	7,000円	7,000円	7,000円
助成金（1泊につき）		4,000円	—	4,000円	—

○選手と同行者は、同一宿舎で宿泊できるよう配慮しますが、宿舎の事情により、別宿の場合や計画輸送バスを利用できないこともあります。

○指定宿舎以外の宿泊を希望する選手は、直接各自で手配して下さい。

（宿泊助成及び計画輸送バスの対象とはなりません。）

○宿泊料金の払込方法は、下記の取扱業者より後日ご連絡申し上げます。

（払込期限は7月7日（金）を予定しています。）

4 宿泊者

宿泊する同行者について必要事項を記入して下さい。

5 その他

○お支払いは現金のみとなります。銀行振込の場合は、お振込手数料はお客様のご負担となります。クレジットカードのご利用は出来ません。

○航空券・宿泊等の予約取消しがあった場合は、航空運賃約款及び宿泊約款に基づき、取消手数料をいただきます。

6 問合せ先

申込みに関して不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

《大会に関する問合せ先》

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4F 公益財団法人 北海道障がい者スポーツ協会内 はまなす車いすマラソン 2017 実行委員会事務局 担当 小林 (TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201) (URL http://www.do-syospo.or.jp/ E-mail kobayashi@do-syospo.or.jp)
--

《航空券・宿泊・バス送迎に関する問合せ先》

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目日通ビル6階 株式会社 近畿日本ツーリスト北海道 北海道DM支店 担当 市村 (TEL 011-251-5731 FAX 011-251-2288) (URL https://www.knt-h.co.jp/ E-mail s-convention-1@or.knt-h.co.jp)

はまなす車いすマラソン2017競技規則

- 1 スタートは、男女ともに8時30分とする。
- 2 競技者は、スタート地点からフィニッシュ地点まで決められたコース内を走行する。
- 3 競技者が走行中、他の競技者の走行を故意に妨害した場合は失格とする。
- 4 競技者が走行中に転倒した場合、競技役員への介助は受けてよい。ただし、競技者に有利になるような介助は受けてはならない。
- 5 競技中における車いす修理の援助は、競技役員にかぎり許可する。
- 6 競技者は、競技役員及び警察官の指示に必ず従うこと。
- 7 競技者は、走行中、競技役員等から競技中止を命じられたときは、直ちに競技を止めなければならない。
- 8 障がい別により別表の3クラスに分ける。
- 9 次のとおり関門に制限時間を設け、制限時間を超えた選手は、直ちに收容車に收容する。

関 門	5km	10km	15km	20km	フィニッシュ
時 間	9時00分	9時20分	9時40分	10時00分	10時05分

- 10 記録の計測については、RSタグ(計測チップ)を使用して行う。
(受付で配布するレンタル用RSタグを、使用方法に従って取り付けること。)
- 11 ナンバーカードは、車いすの脚部と背もたれに各1枚、ナンバーが明確に視認できるよう取り付けること。
同様にナンバーシールもヘルメット正面に取り付けること。
(受付でナンバーカードは3枚配布するので、1枚は日常用車いすに付けること。)
- 12 飲料供給所
 - (1) 飲料供給所は、10km、15km、20km地点付近に設ける。
飲料は、清涼飲料水及び水とし、容器は紙コップとする。
 - (2) 主催者が設けた場所以外で他人から飲料を受けとった場合は失格とする。
- 13 車いす
 - (1) 車いすは大輪2つ、小輪1つからなるものとする。
 - (2) 電動車いす及び力学的に有利になるギアやレバーを取り付けることは認めない。
 - (3) ハンドリムは、2つの大輪にそれぞれ1つのみ認める。
ただし、片手駆動のものが必要と認められた場合はこの限りではない。
- 14 安全のため、選手は競技用のヘルメットを着用すること。

○クラス分け

<p>クラス1 (T51)</p>	<p>T1/LAT1 機能： ・スタート時に肘屈筋を使う（ハンドリムの後方を手首の甲を使ってこぐ）。 ・手はハンドリムを触っているか近いところにあり、駆動する力は肘の屈曲と非常に弱い肘の伸展、および肩と手関節の背屈により起こる。 ・旧来の技術では、手掌を用いハンドリムの上方から下方に、進行方向に向かって駆動していた。 ・脳性麻痺の競技者はいくらか体幹を動かすこともできるが、早く動かすことはできず、対称的な長いストロークをすることはできない。 頸髄損傷競技者—解剖学的機能： ・肘屈筋及び手首の背屈筋が機能する。 ・肘伸筋の合計ポイントが6（両腕合わせて）である。手首の掌屈筋が機能しない。 ・肩が弱い場合もある。 ・また、肘伸筋はいくらか機能するが肘屈筋が弱い競技者もこのクラスが適切である。 旧クラス： ・1A完全麻痺</p>
<p>クラス2 (T52)</p>	<p>T2/LAT1/[A6、A8]/(A9) 機能： ・肘の伸展、手首の背屈及び上部胸筋の使用により駆動力を得る（マットソンテクニック） ・手が車輪の後部にあるときは、肘屈筋を使用することで、より大きな力を出すこともある。 ・体幹上部を動かす際に首の筋肉を使用するため、頭頸部は上を向く。 頸髄損傷競技者—解剖学的機能： ・肘屈筋、肘伸筋、手首の背屈筋及び掌屈筋が機能する。 ・掌屈筋が機能する場合もある。 ・胸筋が機能する。 ・手指の屈筋と伸筋が機能する場合もある。 [A6、A8]—[] つきの表示は、脊髄と下肢機能に影響する他の病理をもち、かつA6またはA8に相当する上肢切断である競技者は、このクラスに割り当てられるということを表す。 旧クラス ・1B完全麻痺 ・1A不完全麻痺 ・1C完全麻痺</p>
<p>クラス3 (T53/T54)</p>	<p>T3/LAT2 機能： ・上肢の機能は正常かほぼ正常である。 ・体幹の機能的活動はない。 ・車いすをこぐ際、体幹は通常脚の上に前屈する。 ・駆動動作を行う際、体幹は起きあがっていることがある。 ・通常、手でハンドリムをたたくようにして力を加える（フレクションテクニック） ・カーブで進路を取る際に肩を使うことがある。 ・進路をとるため駆動動作を中断すると、駆動動作に戻ることが難しい。 ・急ブレーキをかけても、体幹は駆動の際の位置のままである。 (注) 側弯症の競技者や脊椎固定手術を受けた競技者は、通常体幹機能に支障を来す。この場合、腹筋や背筋の機能にも支障を来していることがある。 脊髄損傷競技者—解剖学的機能： ・上肢機能が正常かほぼ正常に近い。 ・腹筋は機能しない。 ・わずかに上部の脊柱起立運動が見られる場合がある。 旧クラス： ・1C不完全麻痺 ・2完全麻痺 ・3上部完全麻痺 T4/LAT2/(A1)/A2/A3/A4 機能： ・体幹を後方に反らせることができる。 ・通常、体幹を回旋させることができる。 ・カーブで進路を取る際に体幹を使用することがある。 ・通常、カーブ付近で、ストロークを行う割合を少なくする必要はない。 ・急に停止した場合、体幹は直立方向に動く。 脊髄損傷競技者及び切断競技者—解剖学的機能： ・通常上部及び下部の背筋を含む背伸筋が機能する。 ・体幹の回旋機能がある。例) 腹筋 旧クラス： ・3下部完全麻痺/4/5/6 ミニマル・ディスアビリティ ・下肢障害が70ポイント以上にならないこと。</p>